

花草木

【ノウゼンカズラ】

ノウゼンカズラ（凌霄花、学名：Campsis grandiflora）は夏に咲く、鮮やかなオレンジや赤い花が特徴のつる性植物です。

中国原産で、夏の強い陽射しに映えるその姿は南国の風景を彷彿とさせます。7～9月に咲き、ラッパのような花の形がユニークです。

この植物は生命力が強く、壁やフェンスに絡みつくので庭のアクセントとして人気があります。ただし、育てる際は茎が外壁を傷める可能性があるので注意が必要です。



大阪市内の公園で咲いていたノウゼンカズラの花

花言葉は「名声」「栄光」です。

我が署のスタッフ 山口森林管理事務所

新岡 連太郎（しんおか れんたろう）（令和6年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

今年度から業務グループで資源活用業務を担当しています。日々の業務としては主に生産事業に係る事務手続き（保安林・形質変更協議、測量図面の作成等）、市況調査報告、機械管理などを行っています。生産事業を進めていく上で監督職員、現場代理人、所内担当者間での連携がとても大切だということを日々実感しています。まだまだ今年度中に習得すべき業務もたくさんありますので、日々の業務の中から上司や先輩の知識や技術の一つでも多く学べるように取り組んでいます。

【職場の雰囲気は？】

山口所は一人あたり作業スペースが広く、優しく相談に乗ってくれる上司・同僚が多いためのびのびと業務に取り組める環境が整っています。また体調を崩して休んだ日もこまめに連絡をくださり、食材などを届けてくださる職員の方もおられるなど本当に優しい方が多い職場です。

【林野庁の魅力は？】

国有林というフィールドで勤務先ごとに多様な観点で森林・林業の業務に携わることだと思います。また勤務地ごとに変わる森林・自然の様相を仕事をしながら見ることは魅力的だと思います。



システム販売 検知の様子（物見国有林）

森林事務所等紹介

山崎森林事務所（兵庫森林管理署）

首席森林官 福本 真也（ふくもと しんや）

山崎森林事務所は兵庫県の西部、岡山県・鳥取県との県境に位置する^{しそうし}宍粟市に所在しています。

管轄区域は、宍粟市の一部（旧山崎町・旧千種町）、姫路市の一部（旧安富町）及び佐用町に所在する国有林6団地約3,155ha、公有林野等官行造林契約地22団地約657haを管理しています。

兵庫森林管理署は兵庫県全域を管轄区域としていますが、県内の森林面積に占める国有林野は約2万9千haで、県内森林面積の約5%にすぎません。なお、管理面積の約半分は宍粟市とその周辺市町に所在しています。

当森林事務所は、国有林野事業の中でも木材生産・林業経営に位置づけられる昔の言葉で表現すれば「営林」事業を盛んに行っており、本年度は、^{かわらやま}河原山国有林（宍粟市）を中心に素材生産事業をはじめ立木販売、造林事業（新植、下刈りなど）を実施しています。

具体的には、森林整備事業として新植約12ha、下刈り約22ha、除伐約5ha、保育間伐（素材生産を含む）約72haを実施しており、素材生産事業では、伐採した木材のうち約3,800m³を搬出し、宍粟市内の製材工場や木材市場で販売することにより、資源の有効活用や地元の産業振興にも取り組んでいます。

また、兵庫県北西部はニホンジカの生息密度が高く、ニホンジカによるスギ・ヒノキの植栽木への食害や皮剥被害が激しいことから、被害防止に向け防護柵の設置や委託による捕獲事業にも取り組んでいます。

今後も、地域住民の方々や林業関係者の方々のご理解とご協力を得るなかで、事業を円滑に進めていきたいと考えています。



伐木集造材の作業



集積土場からトラックへ木材の積込



造林事業までが終わった作業現地



防護柵の設置状況



くくり罠にかかったニホンジカ

シリーズ『国有林 最前線！』

県内の市町や自治会等と取り組む三ホンジカ対策

大型排水管を用いた残渣処理施設を設置 兵庫森林管理署

兵庫県では、ニホンジカの個体数増加で農林業被害額が急増し、県の集計によれば、平成初期は年間約7億円の被害（シカ年間捕獲数：約5千頭）が発生していましたが、平成6年度以降メスジカが狩猟対象となったほか狩猟報奨金制度の創設などで、令和5年度の被害は約1億7千万円（シカ年間捕獲数：約4万3千頭）まで減少しています。

当署も、平成24年度から県内の市町や自治会等と協定を締結し、ワナの無償貸出や防護柵設置個所を提供するなど連携捕獲等を行い、令和元年度から発注するシカ捕獲委託事業と合わせて年間150頭前後（R4=159、R5=162、R6=124頭）を捕獲しています。

しかしながら、依然、県内のシカ生息数は多い状況が続いています。

この様な状況の中、令和6年度に都市部に近い、たつの市に所在する新宮滝谷国有林内に、捕獲したシカをより安全に効率よく埋設処理できる大型排水管を用いた残渣処理施設を試行的に設置しました。



令和6年12月18日現地検討会



残渣処理施設の内部

近畿中国森林管理局管内で大型排水管を用いた埋設処理施設は、試行的に令和3年度に和歌山森林管理署が設置した以降、三重森林管理署も設置しています。

これまで当署のシカ捕獲委託事業では、地面に穴を掘って埋設処理していたので埋設場所が限られ、腐臭が漂い、クマ等を呼び寄せてしまうなど安全性にも課題がありました。

このため、大型排水管を用いた埋設は継続使用することでコストも低減することから、当署においては、より安全かつ効率よく使用できるよう工夫した形で設置しました。具体的には、投入口から腐臭が洩れないよう鉄製の箱枠を被せ、箱枠の蓋を三つ折り形状にして取付強度を高め、蓋が容易に壊れないようにしました。



大型排水管（埋設前、サイズ確認）



大型排水管（外観から見た構造）



大型排水管完成時の外観

また、箱枠の蓋と軽トラックの荷台を同じ高さにし、捕獲したシカの投入作業の負担軽減を図っています。